

令和4年度全国学力学習状況調査の結果分析等について

学校名

秦野市立本町中学校

1 調査結果の分析と考察

本校の特徴	本校の課題
(1) 国語の「我が国の言語文化に関する事項」の領域については、点画の丸みや連続、省略といった漢字の行書の特徴に合わせた仮名の書き方が概ね身につけていることが分かります。	(1) 国語の「思考・判断・表現」の領域については、聞き手の興味や関心を考慮して、表現を工夫することに課題が見られます。また、「知識技能」の領域については、文脈に即して漢字を正しく書くことにも課題が見られます。
(2) 数学の「データの活用」については、箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることにについて、全国・県の正答率の平均をこえており、力がついてきたことが分かります。	(2) 数学の「図形」については、反例の意味を理解することに課題が見られます。また、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することにも課題が見られます。
(3) 理科の「生命を柱とする領域」については、節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみることにについては概ねできていることが分かります。	(3) 「粒子」を柱とする領域については、分子のモデルで表した図をもとに、水素の燃焼を化学反応式で表すことに課題が見られます。また、「思考・判断・表現」の領域については、考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明することにも課題が見られます。

2 昨年度の取組の分析と考察

(1) 国語科では、漢字の書き取りや語句に関する小テストなどを定期的に行い、知識の定着を図りました。一方、「思考・判断・表現」については、文章から読み取った事柄を適切にまとめたり、相手を意識しながら伝え方を工夫する場が授業内で必要だと考えられます。
(2) 数学科では、日常生活に関連付けた課題学習や自分の考えを周りの生徒に説明するグループ学習を大切に授業に取り組みました。さらに、ICT機器を活用した授業で個々の課題等に応じた学習も引き続き行いました。
(3) 理科では、できるだけ身近な材料を用いた実験授業に取り組み、予想した考えを尊重し合える雰囲気づくりに努め、生徒一人ひとりの意欲的な活動につながるよう支援してきました。予想し、それについて検証する技能は身につけてきましたが、考察を根拠として検討する力が弱いと考えられます。

3 教育水準の改善向上に向けた次年度の取組の方向性について

(1) 国語科では、ICT機器を使用しながら、生徒が活発に意見を共有しあえたり、教えあえたりする学習環境づくりを進めていきます。また、文章読解や語句知識によって学んだことを、活用していくような課題を設定し、日常生活に生かせる国語力を育てていきます。
(2) 数学科では、ICT機器を活用して個々の課題等に応じた学習を引き続き行っていきます。また、日常生活に関連付けた課題学習や自分の考えを周りの生徒に説明するグループ学習においてもICT機器を活用して取り組んでいきたいと考えています。
(3) 理科では、日常生活に関連付けた課題学習や基礎基本の確実な定着を目指し、学び合い学習や問題演習への取り組みをより意識して取り組んでいきたいと思えます。さらに、ICT機器を活用し、結果の作成や分析、自他の考えを比較して考察すること、そして自身で表現する機会も設けていきたいと思えます。

4 家庭・地域の方へのメッセージ

コロナ禍で、未だ制限がある中での学校生活が続いております。行事など様々な活動において、規模を縮小せざるをえない場面もありました。ICT機器の利用や少人数グループでの活動など各教科で工夫を凝らして指導にあたり、生徒一人ひとりの意欲に結び付くような活動を常に意識してきました。望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を感じさせるためにも、これからも保護者の皆様のご理解やご協力を何卒よろしくお願いたします。「学校に行くのは楽しいと思いませんか」の質問に、多くの生徒が「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」と答えています。この気持ちをしっかりと受け止め、充実かつ安心した学校生活を生徒一人ひとりが過ごせるよう、今後も生徒たちに寄り添いながら丁寧な支援に努めてまいります。